

1-2 理事会，作業部会等の活動報告

1-2-1 理事会の活動

活動報告では ITA Tunnelling Awards や総会を含めたハイブリッドの会合開催の報告があった。ITA の理事会組織は前総会以降、大きな変化はなく主に副会長を中心に各担当業務を分担し、理事らは多くの補佐業務を遂行し、国連や PIARC（世界道路協会）など他機関との連携は積極的に進めている。新たに IAEA(国際原子力機構)との連携が強化され理事会の一部のメンバーがその会合に出席し、地下空間活用に関する議論を報告した。理事会の年間開催報告では 2025 年 12 月に日本で開催された理事会、それに係る行事の紹介があった。

1-2-2 作業部会(WG)の活動

現在活動中の 15WG は総会と WTC の会期中に会合を催し、活動成果はガイドラインや勧告などの報告書を提示している。議論が進められてきた WG 合併の議論は一 WG の集約化、一定の成果報告などガバナンスの強化案が打ち出された一方で、本来 WG 活動自体が参加者の任意で行われており、成果や貢献の義務付けは望ましくないとの意見もあった。方向性を示す WG 名称変更は行い、合併予定とされた WG 間では、報告書の提示は相互の査読体制をとり、連携を視野に協働の方向で結論づけられた。また、WG 部会長等の立候補規定が整備され、立候補には原則 WG での 3 年以上の活動歴が必要となる。全般的に ITA 自体が規則制定を整理、明示する方向性にシフトし、技術的貢献は、規約を事前に把握するのが望ましく、今後この種の規約制定には、日本からのインプットも必要になる場面が生じる可能性がある。

以降、対面参加とウェブ参加、議事録等の情報から WG の活動状況を紹介する。

(1) WGs/Committees/ExCo Meeting

例年、総会前日の午後に開催する各 WG の部会長や副部会長会合は、今回より全理事出席のもと、各 WG 等の部会長・副部会長との意見交換の場となった。議題は理事会からの伝達事項、各 WG や委員会の年間活動状況の大まかな報告、総会第 2 部での WG 報告を行う際の注意事項が示され、特に Owner Forum に関しては今後の方針に関する意見交換があった。実際には今後の理事会で議論が進められる。

(文責：砂金伸治・東京都立大学)